

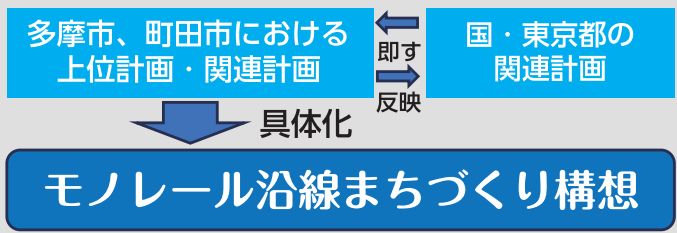
I 構想策定の概要

本編 P3～P4

■ 構想策定の目的

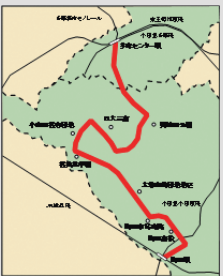
モノレール沿線地域において、多摩市、町田市両市の基本構想で掲げるまちの姿を実現するためにモノレールは都市インフラとして必要不可欠であり、モノレールが走るまちの将来像やその実現に向けたまちづくりの方向性、段階的な取組方針を明らかにする。

■ 構想の位置づけ



■ 多摩都市モノレール延伸の概要

東京都は、2019年(令和元年)より検討を行い、2021年(令和3年)に延長約16kmの延伸ルート※を選定しました。



※ルート検討委員会検討結果では、収支採算性の更なる精査等の結果によっては、他のルート案をあらためて検討することもあるとされています。

II 沿線の現状と課題

本編 P5～P17

多摩センター駅周辺

- まちの回遊しやすさと回遊の楽しさの向上
- 商業の更なる魅力向上
- みどり、憩いの空間の更新



- 「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る課題
 - 「移動の利便性」に係る課題
- ※主なものを掲載

みどり

みどり（里山・緑地等）の活用

住まい

- 良好な住まいづくり
 - 子育てしやすい環境づくり
 - 団地の魅力向上
- など

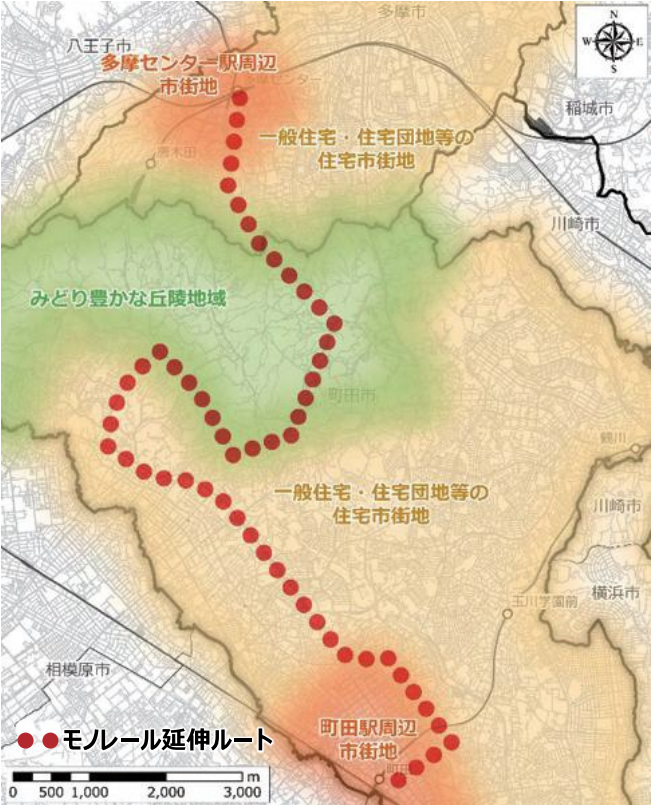


図 沿線地域の土地利用の特徴



移動の利便性（バス）

- バス網の維持・発展
- バスの定時性確保



町田駅周辺

- まち全体の回遊性の向上やにぎわいの広がり
- まちの魅力を向上させる都市機能の誘導

III モノレールの特性と期待される人やまちへの効果

本編 P18

■ モノレールの特性

- 輸送力が向上する
定時性・速達性が向上する
 - 環境にやさしい
 - 乗り換えなしで町田～多摩センター～立川等を行き来できる
 - 新たに駅が整備される
- など



■ 期待される人やまちへの効果

- 「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る効果
 - 都市間交流が進み、地域全体が発展する
 - 移動の信頼性が高まり、住む場所としての価値や、訪れたい場所としての安心感が高まる
 - 駅周辺において、新たな人の流れや都市機能の集積が起こる

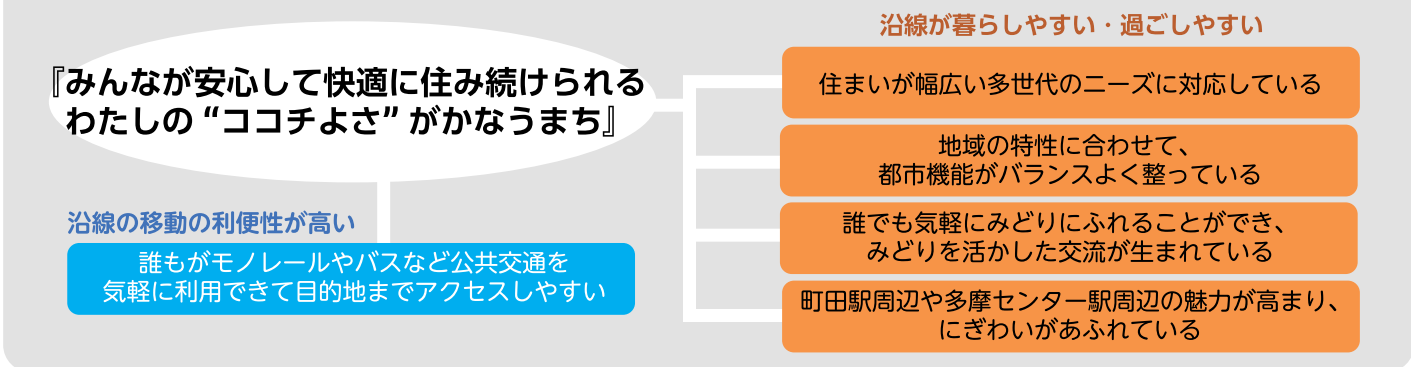
- 「移動の利便性」に係る効果
 - 移動がしやすく、快適になる
 - 心理的、時間的な負担が軽減し、移動がしやすくなる
 - 駅利用者の利便性が高まる

IV 目指す沿線のビジョン

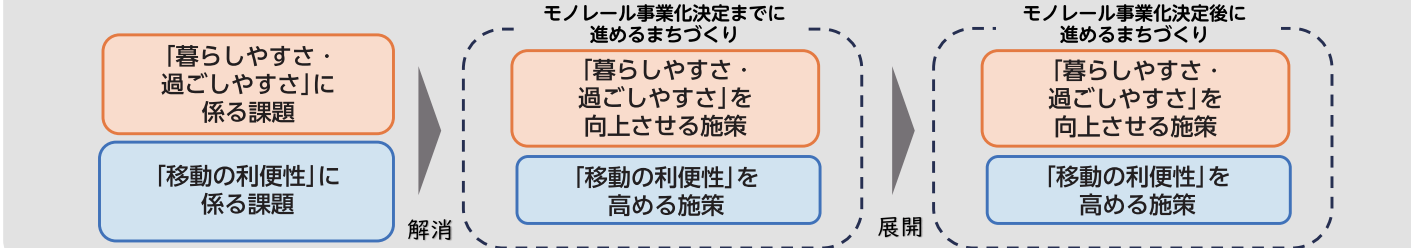
本編 P19～P20

■ 沿線のビジョン

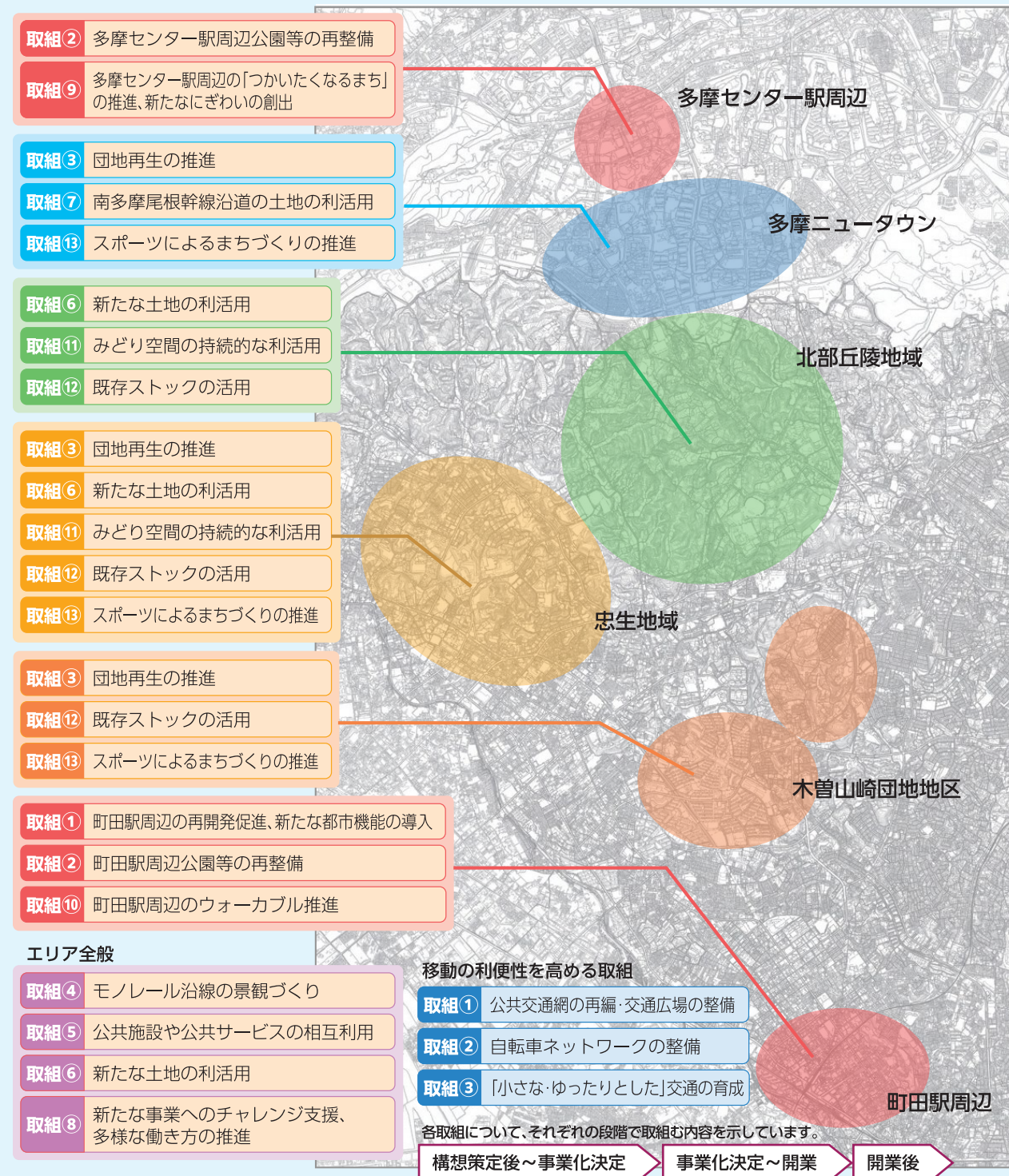
第II章で整理した「沿線地域の課題」を解消するとともに、第III章「モノレールの特性と期待される人やまちへの効果」を踏まえて、目指す沿線のビジョンを定めました。



■ ビジョン実現に向けたまちづくりの進め方



暮らしやすさ・過ごしやすさを向上させるエリアごとの取組



沿線ビジョンのイメージ(モノレールによるエリアのつながりと各エリアの将来イメージ)



VI 多摩都市モノレール町田方面延伸開業までのプロセス

本編 P41

